

## NPO 法人環境市民 理事会 第 8 期 第 6 回 (通算 79 回) 理事会 議事録

日時：2016 年 9 月 13 日 (火) 午前 10:00-12:00

場所：NPO 法人環境市民事務所

理事の総数：16 名

(以下、敬称略)

出席者：(理事) 上田正幸、太田航平、竺文彦、下村委津子、杵本育生、瀬口亮子 (skype)、  
早瀬昇、原田紀久子、松田直子、以上 9 名

(事務局) 石崎雄一郎、野村哲司、竹村光世

委任状提出者：内田洋子、白石克孝、花田眞理子、牧村好貢、以上 4 名、議長へ委任。

議長：松田

議事録署名人：上田、下村

議事録係：竹村

(太田新理事より挨拶)

意外に思われるかもしれないが、これまで、連携して何かを行っていくことは珍しかった。  
新鮮な気持ちで頑張りたい。よろしくお願いします。

### ■報告事項

---

#### 1) 事業報告

(パートナーシップで地域から日本を変えるプロジェクト) 報告者：杵本

8 月 19 日 (水) に環境首都創造ネットワーク会議、全国 NGO ネットワーク会議を開催。

「政策・活動評価チェックリストの作成と優秀事例の表彰」は、10 年連続して行った環境首都コンテストの先進事例をイメージしている。ただし今回は、点数をつけての順位付けはしない。

(買い物で社会を変えるグリーンコンシューマープロジェクト) 報告者：石崎/杵本/瀬口  
ネットワークには環境だけではなくアニマルライツ等幅広い分野の団体が入っている。

企業レイティングは、いいところをほめる仕組みにしたい。

グリーンチョイスはそれぞれ得意分野である NGO に解説情報を作成してもらっている。

水 Do! キャンペーンでは、キャラバンで普及活動をしている。京都でアメリカでの調査の報告を実施できないか検討中。

(その他) 報告者：石崎/杵本

生物多様性の環境学習プログラムの講師派遣無料キャンペーンを実施中。ぜひご活用を。

グリーン連合の近畿地区交流会を 10 月 1 日に東近江市で開催予定。ぜひご参加を。

事務局アルバイトには日下部伸行さんに手伝いに来ていただく予定。

環境市民リーフレットは現在、下村、石崎で改訂案を作成中。瀬口さんが手伝うことに。

## 2) ファンドレイジング報告

資料1の4p、ファンドレイジング「理事会」は「タスクフォース」の誤り。また「グリーンウォッシュ」は「グリーンウォッシュ防止」の誤り。

環境マイスターを他の業種に広げていきたい。その一環としてアンケートを実施した。効果が出ているのではないかと感じられる結果を得られた。パッケージを作成したい。

グリーンウォッシュ防止はターゲットを絞って提案をもっていく予定。具体的には自動車メーカー（日産や三菱など）を考えている。東京自販連から紹介してもらう予定。

昨年度300万円融資を受け、今年5月に返済している。9月末に半期の締めをして、その後理事会に資料を提供したいと考えている。

## ■討議事項

---

### ・決定内容

#### 1) 新しい中期計画策定にむけて

石崎のコーディネートで環境市民に関わる under40 のメンバーを集め、チームを作り、中期計画案を検討する。

#### 2) 25周年記念事業について

記念事業のアイデアを理事会 ML でメール募集する。

### (発言内容摘録)

杵本) 環境市民がどのような団体で在りたいのか、どのようなことを目指すのか、今一度考えたいと思い、今回提案した。環境市民はこのような団体になるべきではないか、どの部分をのばすのか。理事の方に自由に議論いただきたい。

早瀬) 時代背景としては、2020年には前期高齢者が多くなる。環境分野には直接関係のない事柄か。

杵本) 環境市民は実践もするが、提言もするのが特徴だと思う。また特定のテーマの活動ではなく、社会を変える活動をしていこうというのが特徴。またボランティアが自由に参加できることが特徴。これを継続するのか、特化していくのか悩んでいる。今の環境首都創造の活動と、グリーンコンシューマーの活動につながっている。

早瀬) 25周年は来年になるのか？

杵本) 来年になる。四半世紀になるので盛り上げたい。

上田) ある意味でミッションは達成できているのではないか。社会は変わったし、法律もできた。

瀬口) 20周年は何かやったのか？

下村) 20年を振り返る映像を作成し、総会で上映した。また、その一年間の活動を全て20周年事業と銘打った。しかしお金を投入した事業は行っていない。

原田) 20年目の時なのか？

早瀬) 周年事業は3年くらい使える。under40で企画実施するとかはどうか。

石崎) 京のアジェンダ21フォーラムでは、就職氷河期時代のメンバーで企画実施した。

杵本) 5年後、10年後をどうするか。環境市民も25年前は若いメンバーがほとんどだった。

瀬口) FOEでは、25周年は発行誌で特集を組んだ程度だったが、30周年の時は大々的に企画を行った。大きくは記念冊子の作成、記念パーティーの開催、原宿でのギャラリー開催の3つ。一番良かったのは記念冊子作製だった。FOEがこれからどこに向かっていくのかが見えるものになった。団体がよくわかるものになったので、企業等にFOEを紹介するのに役立った。お金はそれなりに必要になるが、使い勝手はとても良かった。

早瀬) 大阪ボランティア協会(以下、大阪ボラ協)は最近50周年事業を実施した。記念事業は時間がかかるので別チームで実施するのがよい。記念誌作成はいいかもしれない。

原田) 記念誌はいいと思うが、労力はかかる。

下村) 歴代ニューズレター編集部に集まってもらって作成することは考えられるかも。

瀬口) 25周年記念事業実行委員会が必要だろう。

早瀬) 大阪ボラ協では同窓会を行った。もう一度会員になってもらうきっかけになった。

杵本) 団体紹介パンフレットに載せられることはごくわずかなので、記念誌はよいのでは。

下村) 環境市民がこれからどこに向かうのか、ビジョンを **under40** に創ってもらうのはいいかももしれない。

太田) 東京オリンピック以降、地方では出てくるかもしれないが、都市部では活動しにくくなってくだろうから、その先のことを考えて何をやっていかなければいけないか。アドボカシー型 **NPO** が経済的に自立して活動するというのは難しいと思う。だが環境市民ができなければ、他の団体では尚更できないはず。十分に収益が得られるモデル、仕組みをぼくら世代で考えなければいけないと思う。

早瀬) それはぜひ、編集長をやっていただきたい！

原田) 太田さんは確かネットマガジンの編集長をやっていたか？

太田) それは既に廃刊している。掲載する情報を集めるのは可能だが、それを経済的に自立させるのは難しい。作成できれば即お金になるわけではないので。

杵本) 環境市民でも、情報はその気になればいいものが集められる。それをどう活用するか。

原田) 環境活動に関わっていて、発信したい人はたくさんいる。それを活用してできるソーシャルビジネスがないか。原稿料を払わずに、原稿を書きたいという人を集められないか。

早瀬) 国際環境 **NGO** グリーンピースの情報量はすごい。調査活動がしっかりしているからだろう。

太田) 僕たちがやっている活動は既に『昔は新しかったが今は普通』という状況になっている。これって新しいよね、という状況にならなければならない。

上田) 以前、ソーシャルビジネスが成功している事例として、太田さん、松田さんを取材したことがある。その特徴として、活動を細かい分野に限定した一点突破であることがあげられる。そこと環境市民はやり方が全く違うので、難しいかもしれない。

杵本) その二人を理事として迎えられているのは、潜在力を持っていると思う。

松田) 太田さんと同じで、2年前に理事になった時に活動の多さと広さにびっくりした。よくこれだけの事業をやっているなと幅の広さに驚いた。確かに活動を絞っていかないといけないことはあると思うが、ここの強みはネットワークだと思うので、国を変えていくことに力を入れていくべきと思う。環境マイスター事業はこれから伸びていくところだと思うので、もっと力を入れていくべきではないか。

杵本) 環境マイスター事業を組み立てていくことができる講師を増やしていかなければいけないと思っている。下村さん、石崎さんに引き継いでいくことを考えている。

原田) 環境マイスター以外にも、グリーンコンシューマーマイスターや、グリーン購入マイスターとか、イオン等で喜ばれるような名前に変更することはできないか？

杵本) もちろん可能。

原田) 環境マイスターだけではなく、小売り部門で浸透するような名称がよいと思う。

早瀬) 環境マイスターは商標登録しているのか？

杵本) 一般的な名称なのでしていない。商標登録は意外にお金がかかるので。「環境市民」は登録している。

下村) コピー機の営業に富士ゼロックスの社員が来たのでグリーン購入の話をしたところ、営業の人はよく知らず、しかし関心が高かった。企業としては既に熱心に活動しているが、営業の人には意外にこういった知識を得る場が必要なのかも。

原田) 例えば太田さんのところと組んで検定はできないか？研修を受けた後、検定料を貰って資格を与えるという仕組みを作るのはどうか？そうすると、どこかの企業にということなく自分たちのところにお金が入るのでは。

杵本) 残念ながら、一般的な環境知識を問う『エコ検定』は商工会議所に先を獲られた。

原田) もっと絞った形のもので実施するといい。

太田) 環境マイスター研修はどれくらいのパッケージ価格にしているのか?

杵本) それまでの経緯もあり、現在はパッケージにしていない。研修の講師料をもらう形で実施している。現在は向こうが御膳立てして、講師で行く形になっている。

太田) パッケージ化したほうがいいのではないかな。

杵本) たまに、環境マイスターの研修をどこで受けられるのかという問合せはある。

原田) 常時フィックスの値段で検定をやったほうがいいと思う。

早瀬) ファンドレイザー検定はよくできている。さすが儲けるパターンがよく組み立てられている。

原田) 何か一つの事業を作っていくことを **under40** で話し合ってもらいたい。

石崎) 資料 2 ■ 討議事項 説明。

上田) 年号は、年度?

杵本) 年度。4月から3月まで。

早瀬) 25周年記念の時に次の計画ができていて、実行する資金を集めるというのが、納まりが良い。

石崎) 資料 2 (参考-中期計画策定にむけて) 説明

杵本) 現在の中期計画は、成果主義に毒されていない計画だった。

原田) ただ、誰がするのか書かれていないのは確かに問題。

早瀬) どんな社会を作っていきたいかというのは大切。

上田) 事業収支を図ろうというのは必要。

早瀬) 評価をどうするかということ。助成金をとっていいのでは。これらについても

under40 で話し合っしてほしい。

原田) 中期計画の中で、人件費・固定費の部分を何で稼いでいくかということと一緒に考えていかないと団体が成り立たない。

杵本) 認定 NPO 法人ということでいいのかということも含めて考えたい。

原田) 確かに、認定 NPO 法人は大変だと考えてうちではやっていない。

下村) 5つの方向性はそれぞれ考えて進めてきた結果につながっているという気もする。

上田) どこまでやるのかも重要。

議長) ひとまず、under40 で詰めていくということで。

早瀬) 実際に関わってくれるメンバーを集め、チームをつくる、募ることから。

原田) やりたいことに少しずつ関わってくれる人を増やすということを考えておくべき。

議長) 石崎さんに under40 のチーム作りのコーディネートを任せする。

記念事業のアイデアはメール募集することにする。

次回の理事会は、あまり時間をおかずに早めに日程調整する。

以上